

ヘルシンキの公共サウナ・社会性

① ロンナ島のサウナ
島全体がバート
・特別な時間としてバート
・人の動線・溜まりの調査
⇒ クールダウンさせる
⇒ クールダウンスペースはバリエーションある
・説明書きが中心の人が動いている

② Loyly
・カフェとサウナ ⇒ 相性がいい、合流のロビーとしても機能
・海に面したテラス/展望台
⇒ 人の動きをアワードする設計
・服を着た人、サウナに入る人が混在
・特に説明書きもない

パブリックサウナ
1940~ 1970~ 2013~
社交の場 電気サウナの登場
再注目
郊外型
脱衣シャワー サウナ クールダウンシャワー 着衣
2-3回くぐる
近年のサウナ建築

● サウナ (フィンランド語)
→ 森の中にある (原風景)
・バートと浴槽を繋ぐ場所
・壁と天井の間に (2層構造)
・生活 - 娯楽
洗濯時にも100~150℃
一般的

① 地中サウナ
② 母屋の2階サウナを造る
→ 過酷な冬のゆとりが! → 建築の原点

● 歴史
13世紀後半
スウェーデンによる統治
1999年
サウナは盛んになった!
19c
ロシアによる統治
1917年
ロシア革命
12月6日
独立
2019年
日本-フィンランド
外交樹立100周年

③ Allas Sea Pool
プールとカフェ
⇒ 混在 - 帯びながら都市の風景へ
・複合要素
・規模大
都市型

フィンランド
島: 18万
湖: 19万
国土は日本と同程度
人口: 550万人
首都: ヘルシンキ (60万人)
言語: フィンランド語・スウェーデン語

交流の場
・裸の付き合いとして高誤をしたり!
日本人にも身近
1964年
オレヒョウで日本にサウナが伝わる!

● サウナの公共性
① 都市の中の面へ
② 日常のついでに利用される
③ サウナは観光資源
④ バート化を重ねた先の文化

フィンランドのスモークサウナ by 森野鼓 (東京大学)

イメージは "くんせい"
→ けむりで空間をいぶす
土着の建築 (Vernacular Architecture)
→ 知恵がこめられている

ログハウス内
ワンルーム → アイヌのせじと似ている!
暖房が真ん中にある → ①火をくべ、けむりを (5~6h) ②けむりを外に出す
通常のサウナ
スモークサウナ
優しく身体が温まる

建物の特徴
3.5m程度 薪と使う丸い石
3種類 火に強い石
軽石
石と石をつなぐ 空気気密性を高める
薪の半分を占める
石少
薪と木の間には、コケを敷く! 100年ほど
自然と防水 50~100年ほど
熱をためない・蓄熱
薪がくまに割れる!! 手垢が残るおなじ風情に!

サウナの環境特性 by 森太郎 (北海道大学)

36-37℃に保つ必要性
M = E(放射) + R(放射) + C(対流) + S(蓄積) 代謝
サウナ
皮膚
・蒸発は有効
・汗は体温のコントロールには寄与していない
人体の生理
結露

冷覚 25℃
温覚 35℃
痛覚 20℃
皮膚表面で結露 → 凝縮熱で → 痛覚
熱さの感じ方が材料によって異なる。
(金属: 熱が伝わりやすい, 木材: 伝わりにくい)
水蒸気
体温: 温度が上がる!
透湿現象を考慮しておく
・換気口をつける
・サウナペーパーで防湿
防湿

水蒸気を使うと...
台風と同じ (上昇気流 熱エネルギー)
常時熱供給は必要!
透湿現象を考慮しておく
・換気口をつける
・サウナペーパーで防湿
防湿